

【 専門分野 】 看護の統合と実践 6単位 210時間

I. 科目構築の考え方

看護の統合と実践は、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した内容をより実践に近い形で学習し、知識・技術を統合する。看護は多様な場であらゆる健康レベルにある人びとに他職種・多職種と連携・協働しながら看護を提供するため、看護専門職としての責務や誇りを自覚し、生涯学び続ける重要性を学ぶ。組織における看護マネジメントや看護ケアマネジメント、看護の質の評価、人材マネジメントやチーム医療におけるメンバーシップ・リーダーシップ、他・多職種との連携・協働を学ぶ内容として看護管理を設定する。また、看護の対象の健康レベルに応じた的確な臨床判断を行うための基礎的能力を養うため専門基礎分野で学んだ内容を基に看護実践を段階的に学ぶ内容として看護総合技術を設定する。看護総合技術には、看護実践上生じている問題を学際的な視点（人間工学や情報科学など）から看護サービスの向上や看護動作の効率化を検討する内容を盛り込む。さらに、医療の医療安全の基礎的知識を学ぶ内容として医療安全を設定する。近年、日本は未曾有の災害に見舞われている。災害医療・看護や救急医療に関する基礎的知識や国際化における保健・医療・福祉の課題を理解する内容として広域看護方法論を設定する。臨地実習は、各看護学で学んだ実習内容を踏まえ、これまでに培った知識や技術を統合し、あらゆる健康レベルにある看護の対象の多様な健康ニーズや生活の状況に応じた看護実践能力を身につける内容として統合実習を設定する。統合実習は、看護専門職としての責任を高め、自律した看護実践者をめざし自らの課題と使命を自覚する実習として位置づける。

II. 目的・目標

1. 目的

基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識・技術を統合し、多様な場であらゆる健康レベルにある人びとに、他職種・多職種と連携・協働しながら看護を提供するための知識・技術を学ぶ。看護専門職としての責務や誇りを自覚し、生涯学び続ける重要性を学ぶ。

2. 目標

- 1) 看護における医療安全の推進と医療安全管理について理解する。
- 2) 国際的な健康問題や国際看護の実際を知り、諸外国との協力や看護の役割を理解する。
- 3) 災害医療の基礎的知識を理解し、災害各期に応じた看護を理解する。
- 4) 既習の知識・技術を統合し、対象に応じた看護を実践する。
- 5) 看護実践上の課題や問題点を学際的考察により、看護の効率性・経済性について検討する。
- 6) 病院の機能と看護サービスの管理（マネジメント）を理解する。

Ⅲ. 科目の構成

専門分野	科目名 (時間)	単元 (時間)
看護の統合と実践 6 単位 210 時間	看護管理 (1 単位 30 時間)	地域における病院の役割と機能 (2)
		地域における看護の役割と機能 (2)
		看護マネジメント マネジメントに必要な知識と技術 (6)
		組織における看護サービスのマネジメント (10)
		看護職のキャリアマネジメント (2)
		臨床における看護研究の実際 (8)
	医療安全 (1 単位 30 時間)	看護業務と医療事故の現状 (2)
		組織における医療安全対策 (8)
		看護事故防止の考え方 (2)
		事故発生のメカニズムと事故分析の方法 (10)
	広域看護方法論 (1 単位 30 時間)	看護業務と事故防止 (8)
		国際看護 (14)
	看護総合技術 (1 単位 30 時間)	災害看護 (16)
		臨床場面で遭遇する看護の実際 (24)
	統合実習 (2 単位 90 時間)	看護実践上の課題と展望 (6)
		統合実習 (90)

IV. 授業の概要（シラバス）

分野	専門分野	科目名 単位（時間）	看護管理 1単位（30時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	3年 前期																
講師名 所属	力武 一久 原崎 真由美 黒木 智鶴 大塚 真由美 矢野 智英 山田 祐子 村上 由紀	嬉野医療センター 病院長 医師 社会医療法人祐愛会 織田病院 看護部長 看護管理者 嬉野医療センター 看護部長 嬉野医療センター 副看護部長 嬉野医療センター 副看護部長 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：看護師 16年 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験：看護師 21年 助産師 9年																					
授業概要	<p>看護管理は、看護を仕組みとしてとらえ、資源の有効利用により、よりよい看護を提供するためにはどうすればいいのかを追求していくことである。本科目では、チーム医療および多職種との協働のなかで、看護師としてのメンバーシップ、リーダーシップのあり方、組織における看護師の役割を理解し、病院の機能と看護サービスの管理（マネジメント）について学ぶ。看護専門職の責務として、自らの看護実践を看護研究としてまとめ、将来的なキャリアマネジメントについて考える機会とする。</p> <p>また、3年次に受け持った患者の看護を通して、看護の意味や質向上を目指して行った看護の効果について、科学的根拠をもとに振り返り、症例研究（ケーススタディ）としてまとめ、発表する。</p>																						
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における病院の役割と機能及び政策医療の特徴を理解できる 2. 地域における看護の役割と機能及び政策医療看護の特徴を理解できる 3. 組織における看護部門の役割・機能を理解できる 4. 患者に安全で安楽なサービスを提供するための看護マネジメントを理解できる 5. 看護専門職の人材マネジメントを理解できる 																						
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院																						
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 系統看護学講座 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院（看護学概論テキスト） 2. 看護管理学 自律し協働する専門職の看護マネジメントスキル 南山堂 3. 系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 																						
評価方法	<p>評価は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td>○</td> <td>技術確認</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート	○	技術確認				口頭試問		授業態度		出席状況			
筆記試験	○	レポート	○	技術確認																			
口頭試問		授業態度		出席状況																			
授業計画																							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師																	
1	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の役割と機能 2. 国立病院機構が担う医療 <ol style="list-style-type: none"> 1) 国立病院機構の使命（ミッション） (1) 幅広い医療 			講義		力武 一久																	

	<p>(2) 地域医療構想の推進による「地域完結型医療」の実践</p> <p>(3) 臨床研究と教育研修のより一層の充実</p> <p>2) 国立病院機構嬉野医療センターの医療</p>		
2	<p>3. 看護マネジメント</p> <p>1) 看護におけるマネジメントの目的と方法</p> <p>2) 組織目標達成のマネジメント</p> <p>(1) 理念の形成と浸透</p> <p>(2) 看護の組織化</p> <p>4. 国立病院機構が担う医療と看護</p> <p>1) 国立病院機構の看護の機能と役割</p> <p>2) 国立病院機構嬉野医療センターの看護理念と看護組織</p> <p>※事例紹介：嬉野医療センター</p>	講義	黒木 智鶴
3	<p>5. 看護サービス提供の場と看護の実際</p> <p>1) 看護サービス提供の実際</p> <p>・地域とのつながり</p> <p>※事例紹介：織田病院（佐賀県南西部）</p>	講義	原崎 真由美
4・5	<p>6. マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>1) マネジメントプロセスとマネジメントサイクル</p> <p>2) 組織構造とその原則</p> <p>3) 組織マネジメントの基本</p> <p>4) リーダーシップとマネジメント</p> <p>5) 組織の調整と組織文化</p> <p>6) パワーとエンパワメント</p> <p>7) 変化と変革</p>	講義	黒木 智鶴
6	<p>7. 人的資源のマネジメント</p> <p>1) 採用・配置</p> <p>2) 労働環境の整備</p> <p>3) キャリアディベロップメント</p> <p>(1) 新人教育・研修</p> <p>(2) 現任教育・研修</p> <p>4) 人材フローのマネジメント</p> <p>(1) インフロー</p> <p>(2) 内部フロー</p> <p>(3) アウトフロー</p>	講義	黒木 智鶴

7	8. 施設・設備環境のマネジメント 1) 医療施設と設備 2) 療養環境と作業環境の整備 9. 物品のマネジメント 1) 物品管理システム (1) 医療機器 (2) 医薬品 10. 情報のマネジメント 1) 情報の種類と管理	講義	大塚 真由美
8・9	11. 看護サービス提供のしくみづくり 1) 看護単位の機能と特徴 2) 看護ケア提供システム 12. 看護業務の実践（日常業務のマネジメント） 1) 看護業務 2) 看護基準と看護手順 3) 情報の活用 4) 日常業務の組み立て方、優先順位の決定	講義	黒木 智鶴
10	13. 看護の質の保障 1) サービスの評価 (1) 評価の視点（構造・過程・結果） 2) 医療におけるサービスの質の評価 3) 医療機能の評価	講義	矢野 智英
11	14. 看護職のキャリアマネジメント 1) 看護職のキャリア形成 (1) 看護職の教育制度（キャリアラダー） (2) 看護職としての成長（社会化） (3) タイムマネジメントとストレスマネジメント 2) 専門看護師・認定看護師・認定看護管理者制度 特定行為研修 3) 看護職の専門性とキャリアマネジメント	講義	山田 祐子
12～15	15. 臨床における看護研究の実際 1) 症例研究（ケーススタディ） (1) 研究計画書作成 (2) 研究論文作成 (3) プレゼンテーション ※前半の実習で症例をとるように各自調整する ※授業以外の時間を使用して研究を進める 2) 看護研究発表	講義・演習	村上 由紀

	終講試験	試験（評価）	単位認定者 村上 由紀
--	------	--------	----------------

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	医療安全 1 単位 (30 時間)		授業 形態	講義 演習	開講 時期	2 年 前期
講師名 所属	川下 洋美 嬉野医療センター 医療安全管理係長 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 9 年 村上 由紀 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事 実務経験:看護師 21 年 助産師 9 年							
授業概要	医療技術の発達や看護の対象者の多様化、医療事故に対する社会の意識の向上により、「安全な医療の提供」が求められている。医療安全は「医療の質の保証」であり「医療の質の管理」そのものである。医療安全の確保には、個々の医療従事者と医療システム双方の安全強化が欠かせない。そのため、基礎看護学の医療・療養環境を支える技術で学習した安全の概念をふまえて、医療安全管理の実際について学ぶ。							
科目目標	1. 看護における医療安全の推進と医療安全管理について理解できる 2. 医療安全管理を行う上で必要な基礎的知識を理解できる							
テキスト	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践 [2] 医療安全 医学書院							
参考文献	1. 医療安全ワークブック第 3 版 医学書院							
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照							
	筆記試験	○	レポート		技術確認			
	口頭試問		授業態度		出席状況			
授業計画								
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師	
1	1. 看護業務と医療事故の現状 1) 医療事故と医療過誤 2) 事故発生のメカニズム (1) 人間特性 (2) 環境要因 3) 看護事故の構造				講義		川下 洋美	
2	2. 医療安全対策の変遷 1) 医療安全のはじまり 2) 医療安全に係るこれまでの動向 3) 医療安全の推進				講義			
3	3. 組織における医療安全対策 1) 組織としての医療安全対策 ① システムとしての事故防止 ② 医療安全管理者の役割 ③ 重大事故発生時の組織の対応 2) 医療事故後の対応 ① 医療事故の報告制度 ② 医療の質の評価				講義			

4	4. 病院組織における医療事故に対する安全対策 1) 事故やヒヤリハット報告によるリスクの把握－ 分析－対策体制の確立 2) 事故やヒヤリハット事例の分析 3) リスクへの対応	講義	川下 洋美
5	5. 医療安全対策の国内外の潮流 1) わが国の医療安全対策の潮流 2) 国外の医療安全対策の潮流と国際的連携	講義	
6	6. 看護事故防止の考え方 1) 患者側要因と医療者側要因の2軸から見た看護事故 (1) 間違いによる事故を防ぐ3ステップ (2) 危険の予測(評価)に基づく事故防止の2ステップ	講義	村上 由紀
7	7. コミュニケーションエラーによる医療事故の防止 1) I-SBAR-Cを用いたコミュニケーションの実際	演習	岩谷 望美
8・9	8. 事故分析の方法 1) 根本原因分析(RCA分析)	演習	
10・11	8. 事故分析の方法 2) pm-SHELL分析	演習	
12・13	9. 看護業務と事故防止 1) 事故防止に活かす危険予知能力(KYT)とは 2) 療養上の世話における事故発生要因と事故防止の視点 (1) 転倒・転落防止 (2) 誤嚥・異食 (3) 熱傷	演習	岩谷 望美
14・15	9. 看護業務と事故防止 3) 診療援助における事故発生要因と事故防止の視点 (1) 輸液ポンプ・シリンジポンプ (2) 人工呼吸器 (3) 生体監視モニター (4) 与薬	演習	
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 岩谷 望美

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	広域看護方法論 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	3 年 前期												
講師名 所属	神谷 保彦 原田 千恵子 院内講師 松本 良洋	長崎大学 熱帯医学グローバルヘルス研究科 教授 別府大学 看護学部看護学科 助教 嬉野医療センター 救命救急センター 医師 嬉野医療センター 看護師 (DMAT)																	
授業概要	<p>グローバル化が進んだ現代の社会においては、わが国だけでなく地球上のあらゆる人々の健康を考える必要がある。世界ではどのような問題が起こっていて、人々は何に苦しんでいるのか、諸外国における保健・医療・福祉の課題を理解し、それに対して看護師は何かできるのかを国際看護の内容で学ぶ。</p> <p>災害看護では、近年、地震や洪水、土砂災害等の災害の頻度や規模が拡大し、被害も増大している。このような状況の中で、災害の備えの重要性や被災傷病者の医療・看護への期待は大きくなっている。そのため、災害の基礎的知識と災害看護を実践できる能力を養えるよう学ぶ。</p>																		
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際的な健康問題や看護の国際協力の組織・仕組みについて理解できる 2. 国際看護の実際について知り、諸外国との協力や看護師としての役割を考えることができる 3. 災害医療の基礎的知識を理解できる 4. 災害各期に応じた看護を理解できる 5. 今後起こりうる災害を理解し、災害の備えを考えることができる 																		
テキスト	1. 系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院																		
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害現場でのトリアージと応急処置 日本看護協会出版会 2. 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 南山堂 3. いのちとこころを救う災害看護 災害サイクルからみた各期の対応 学研メディカル秀潤社 4. 佐賀県ホームページ https://www.pref.saga.lg.jp 																		
評価方法	<p>詳細は別紙「評価計画」参照</p> <table border="1"> <tr> <td>筆記試験</td> <td>○</td> <td>レポート</td> <td></td> <td>技術確認</td> <td></td> </tr> <tr> <td>口頭試問</td> <td></td> <td>授業態度</td> <td></td> <td>出席状況</td> <td></td> </tr> </table>							筆記試験	○	レポート		技術確認		口頭試問		授業態度		出席状況	
筆記試験	○	レポート		技術確認															
口頭試問		授業態度		出席状況															
授業計画																			
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師													
1	1. 国際看護の概念			講義		神谷 保彦													
2	2. グローバルヘルス			演習 グループワーク															
3	3. 国際協力のしくみ			講義															
4	4. 文化を考慮した看護			講義		原田 千恵子													
5	5. 開発協力と看護			講義															

6	6. 国際救援と看護	講義	
7	7. これからの国際協力の課題	演習 グループワーク	
8・9	8. 災害医療の基礎知識 1) 災害の種類と健康被害 2) 災害医療の特徴 (1) CSCATTT (2) トリアージ (3) 災害医療体制 (4) 災害対応にかかわる職種間・組織間連携 3) マスギャザリングと NBC 災害への対応 4) 災害と情報 5) 災害と法律 (1) 災害対策基本法 (2) 災害救助法 (3) 被災者支援制度	講義	救命救急センター医師
10	9. 災害サイクルに応じた災害ケア 1) 急性期・亜急性期 2) 慢性期・復興期 3) 静穏期 10. 地域における災害と備え	講義	救命救急センター医師
11	11. 災害看護の基礎知識 1) 災害看護の役割 2) 災害看護の特徴 3) 災害看護における倫理課題 4) 災害看護に必要な情報 5) 災害看護におけるアセスメント	講義	松本 良洋
12	12. 災害医療におけるトリアージ ・災害訓練参加	講義・演習	
13・14	13. 被災者の特性に応じた災害看護の展開 1) 子どもと家族に対する災害看護 2) 妊産婦に対する災害看護 3) 高齢者に対する災害看護 4) 障害者に対する災害看護（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、知的障害、精神障害） 5) 慢性疾患患者に対する災害看護 6) 在留外国人に対する災害看護	講義・演習 グループワーク	
15	14. 災害とこころのケア	講義	

	1) 災害がもたらす精神的影響 2) こころのケアの基本 サイコロジカルファーストエイド：PFA 3) 被災者のこころのケア 4) 遺族のこころのケア（グリーフケア） 5) 被災支援者のこころのケア 6) 救援者のストレスとこころのケア		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 救急救命センター医師

分野	専門分野	科目名 単位 (時間)	看護総合技術 1 単位 (30 時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	3 年 前期
講師名 所 属	池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 教員 実務経験:看護師 19 年 松尾 重明 久留米工業大学工学部 教授						
授業概要	基礎分野から専門分野まで学んだ知識・技術を統合し、治療処置や生活の援助を必要とする対象の援助を考え実践することを学ぶ。臨床判断を行うための基礎的能力を養うために専門基礎分野や基礎看護学で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶ。自己の看護実践能力の到達状況と課題、今後の展望を明確にする。看護実践上の課題や問題点について1年次科目「人間工学」で学んだ力学的な考察をすることによって、看護作業の効率化について探求する。						
科目目標	1. 既習の知識・技術を統合し、対象に応じた援助を考え実践できる 2. 自己の看護実践能力の到達状況を評価し、課題と今後の展望を明確にできる 3. 看護実践上の課題や問題点を学際的考察により、看護の効率性・経済性について検討する						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院						
参考文献	基礎人間工学、東京電機大学出版局 (人間工学テキスト) その都度講師より提示する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記試験	○	レポート	○	技術確認		
	口頭試問		授業態度		出席状況		
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 臨床場面で遭遇する看護の実践 1) 臨床で遭遇する診療の補助 (1) 対象の病態の変化や疾患を包括的にアセスメントする (2) 対象に行われている治療の理解			講義・演習		池ヶ谷 知美	
2~4	(3) 安全安楽な診療の補助計画・実施・評価 ① 静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射の実施 ② 輸液ポンプを用いた点滴静脈内注射の実施			演習			
5・6	③ 酸素療法中の対象の移動時の酸素ボンベの取り扱い (チューブ管理、酸素流量、酸素ボンベ残量計算)			演習			
7	2) 多重課題に対する実践 (1) 優先順位の考え方 (2) タイムマネジメントと行動計画立案の視点			講義・演習			

8	3) 複数の患者に対する看護の実践 (1) 各対象の状況に応じた看護 ① アセスメント ② 看護目標 ③ 看護計画立案	演習	池ヶ谷 知美
9	(2) 優先順位 ① 各対象の優先順位の考え方 (3) タイムスケジュール	演習	
10・11	(4) 援助の実施と結果	演習	
12	(5) 評価・修正	演習	
13	2. 看護実践上の課題と展望 1) 看護実践上の課題の力学的考察 (看護作業の効率性・経済性)	講義・演習	松尾 重明
14	2) 人間工学との共同による課題分析	講義・演習	
15	3) 人間工学との共同による解決策の検討	講義・演習	
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 池ヶ谷 知美